

「石垣島・白保におけるサンゴ礁文化継承のとりくみを学ぶ」

担当教員名 梶 裕史

コース概要

日程	2016年3月3日～7日
場所	沖縄県石垣島・白保集落
参加人数	16名

コースのねらい

「サンゴ礁文化」とは何か、またそれを継承することにはどんな意義があるのか、住民主体で持続的な地域づくりに取り組んでいる白保集落で近年開始された、手づくりの「スタディツアー」に参加して体験学習します。

内容

日本最南の沖縄県八重山諸島の主島・石垣島にある白保集落は、かつては「魚湧く海」と呼ばれた豊かなサンゴ礁の海に面して、自然の恵みを持続的に暮らしに活かす半農半漁の自給自足的な生活文化を築いてきた農村です。この白保は、海の埋め立てによる新空港建設計画をめぐる長年の問題を乗り越え、21世紀から、外部自然保護団体WWFが設立した組織「しらほサンゴ村」と住民有志との協働により、サンゴ礁文化の継承による持続的な地域づくりのとりくみを始めました。その活動は現在第二段階に入り、NPO夏花という新たな住民組織に受け継がれています。このNPOが収入源の一つとして始めたのが、地域のとりくみを体験学習し、民泊・稼業体験により白保の人々と交流するプログラムを豊かに含む「スタディツアー」です。

本FSでは、初日夕方までに現地集合、2日目にマイクロバスにて石垣島の外観を得る島内めぐりののち、午後からスタディツアーに参加しました。

2日目：「入村式」。サンゴ礁文化についての講習後、沖縄の伝統的集落景観の原風景が残る白保村散策。伝統民家にて名物オバアによる方言講習。民宿泊

3日目：午前 赤土流出防止のためのサトウキビ株出し補植作業（崎枝集落）。午後、白保サンゴ礁のシュノーケリング観察。夜、民泊先の方々など白保の人々との交流会。白保の海・田畑で採れた幸を頂き、私達の方言自己紹介や子ども達の伝統芸能披露観賞。余興で私達も芸能に参加。このさき2泊は5家庭にホームステイ。

4日目：午前 6次産業の優良事例「白保日曜市」見学、6次製品の素材「月桃」の高度加工施設における作業体験。午後から各民泊先の稼業体験（農業、畜産業、織物）。

5日目：午前 赤土流出防止グリーンベルトづくりの一環として、集落内に月桃植栽。午後「離村式」

学習を終えて

サンゴ礁が健全であってこそその「サンゴ礁文化」。その保全のためには陸と海とのつながりの深さを知り、地域住民あげての、陸上のエコな農業・ライフスタイルをめざす活動が必要であり、しかもボランティアではなくその活動により地域に「収益」が齎されることが不可欠なことを学びました。そしてNPO活動のさらなる活性化のために、白保サポーターといえる交流人口を増やすことが有益なことが、特に民泊家庭先の温かいおもてなしの感動とともに実感できました。白保びとの生活リズムと同化できる民泊はかけがえのない体験であり、私もいつか必ずリピーターとして再訪したいと思っています。（1年・池澤正紀）



白保サンゴ礁シュノーケリング観察



交流会、余興の伝統芸能参加 白保の子達と



赤土流出防止対策のサトウキビ補植作業